



開花ステージにおける栽培技術

幅広いモデルの品種選択肢およびハイブリッドの特徴によると、生産者の皆様の出荷に向けた厳密な開花プログラムが可能になります。

これは播種後約 15 週後、第一葉の出現から、シクラメンの開花への誘導はすでに始まっています。

しかし、栽培期間中の全てにおいて様々な要因により、開花は量的にも質的にも、良くも悪くも変わります。

下記は質的に良く開花させるためのアドバイスです：

1. 葉と根のバランス
2. 光と温度
3. かん水
4. 相対湿度
5. 肥培管理



1. 葉と根のバランス

開花ステージを成功させるためには、根部分と葉部分のバランスが適正に取れていることが大切です。

自分のシクラメンが開花に備えて良いコンディションを整えているかどうか、視覚的にどうやって確認できるのでしょうか？

- ふさふさとして元気な細根が均一に、まんべんなく伸張した根鉢が作られている。
- 葉枚数が多い、葉柄が短い、古い葉と新しい葉の高さの差がない。



白い根



ふさふさとして元気である

シクラメンは根呼吸に非常に敏感な植物ですが、開花期にはこの根呼吸がスムーズな栄養分の吸収を妨げてしまいます。

毛細根が発達していると適切で均等な吸収ができます。毛細根の不足は水分を吸収しすぎ、過度な株の生長をまねいてしまいます。また、葉と根のバランスが適正に取れていることで、より大きく塊茎が発達します。これはエンドユーザーの元で長持ちさせるための重要な要素です。



正しく発達した塊茎

開花前に根系システムがうまく出来ていない場合はどうすればよいのでしょうか？

1. かん水調整が可能ならば予定開花期の前、とりわけ根がひ弱である場合、かん水頻度を増やし、一回当りのかん水量を低く抑えることを強くお勧めします。
2. 新しい根の生長を促進させるために、用土の E.C. 値がリスクレベル (> 1 ms/cm, 1/1,5 法) を超えていないかどうか確かめ、栄養溶液の伝導率を少なくとも 50% 低くします。



2. 光と温度

開花ステージでは、光量の調整は絶対条件です。



これは温室内および植物組織の最高温度を上げることなく、光合成を行うための光量を適切に調整することです。

万一、過度な放射により温度が上昇してしまうとシクラメンは株の生育期が延長したと受け取ってしまいます。そうなると水分要求を増大させ、株のボリュームが大きくなりすぎ、最終的に開花を遅らせてしまいます。

株の生育ステージが長すぎた



では、温度上昇を抑えつつ、花の上がりをも促進する温度(夜/昼の平均気温 = 15/20°C)に保つよう、放射をコントロールするにはどうすればよいのでしょうか。理想的には 40,000Lux 程度にとどめること、とくに最高気温が 25°C を超える場合は必要です。つまり、遮光をはずすのをあまり早くしすぎないように注意します。とくにここ数年の秋のように明るく暖かい場合は注意してください。他の方法で放射をコントロールするためには: 20°C 以下の気温に戻すために可動パネルや扇風機を利用します。

開花期の相対湿度が 80% 以下であれば、最低気温が 10/12°C という状況下でもモレルのハリオス® シリーズはとて強健で、しっかり開花します。とくにハリオス® のフリンジ品種は冬型の栽培をお勧めします。

なかには、より株にボリュームを持たせるために敢えて温度を上げ、出荷計画に合わせ栽培期間を延ばす生産者もいます。南欧型の気候環境では、開花に適する気温になるのを待ちながら、株が 20cm の鉢に合うようになるまで株の生育期間を延ばすことは可能です。この場合は途中で 1 ~ 2 度スペーシングしてください。



ミニや中輪タイプの品種では光と温度の調整を緩和することが可能です。生理学的にこれらの品種は葉と根のバランスを崩すことなく、開花時期にもより高い気温に順応します。

しかし、出来れば《ストレス》のかかった開花つまり株の生育途中で熱により促進された開花にならないよう、品種ごとの強健性を確かめてください。メティス®、ティアニス®およびプレミアムシリーズは、シクラメンシーズン開始早々の開花にとっても適しています。



花芽が上がっている ティアニス®品種



3. かん水

日が短くなり気温が下がる開花期では、かん水を少なくします。かん水の回数を減らしつつ、かつ定期的にかん水できるよう開花ステージに合った水分量を確定することが望ましいです。



かん水量は選択した品種、鉢サイズおよびかん水方法によって決められます。回数も株の蒸発散によって決められます。

蒸発散は前述の光/温度の2つの影響を受けます。日が短くなる時期には、この蒸発散は低くなるので、かん水頻度も2～3日置きへと減少させます。この段階でもまた、かん水の量と回数は根のクオリティに依存します。

過かん水により萎えた株



ハリオス®品種を1～2リットル容量のプラスチック鉢で栽培する場合、一回あたりのかん水の量は最高100～150ccまで与えることができます。メティス®およびティアニス®品種を0.5～0.75リットル容量の鉢で栽培する場合の一回あたりかん水量は最高50～75cc程度です。これらの水量は目安量であり、他の栽培要因によっても変わります。



4. 相対湿度

シクラメン栽培において、気温が、特に夜温が低くなってくると、気体の凝縮が徐々に見られるようになります。蒸散量を最低限度確保しつつボトリチスのリスクを避けるための相対湿度は80%以下でなければなりません。

湿度が高くなりすぎると、シクラメンの気孔の活動、つまり蒸散が最低限に縮小され、結果的に開花を遅めたり、花数が少なくなったりします。

ボトリチスによる被害



こうした状況を避けるために、出来る限り、かん水の量を株が蒸散できるだけの水分量に正確に減らさなければなりません。またしばしば排出された水によって温室内の湿度が高まるので注意してください。

最低温度(10/12°C)を確保するために温室を締め切る場合、また湿度が80%を超える場合、対策としては暖房と扇風機の併用(湿度を80%以下に戻すため)しかありません。



5. 肥培管理

先で、秋冬の開花時期の到来とともにどのように光量、温度およびかん水量を下げているか分析しました。

そのほか、花芽が次々上がるように肥料を与え続けなければなりません。この要因は連続開花性と豊富な花数を確保し、エンドユーザーの元でも花持ちが良いシクラメンを栽培するための最終仕上げとして必要な要因です。



鉄分の欠乏と根の窒息

栄養溶液で最も大切な要素は **窒素** (硝酸態が望ましい。モレルニューステターN°2《窒素分の施肥管理》をご参照ください。) で、これは、かん水頻度を抑えているために一回のかん水で濃度100~150 mg/l (ppm) 与えることができます。

平均気温がより低いなか、窒素分を吸収することで花卉がより大きくなり、色もより鮮やかになります。クオリティの高い根系システムが出来ている場合は、カルシウムや鉄などの多量 & 微量元素の吸収もよりスムーズになります。



窒素分の規則的な吸収をより良くするために、N/Kのバランスは1/2、K₂Oを200 ~ 300 mg/l供給します。カリの過剰供給(N/K: 1/6)は連続開花性を妨げ、花数も少なくなってしまう。

開花期が夏から秋となるときは平均気温とかん水頻度がより高いため、メティス®、ティアニス®、プレミアムおよびラティニア®品種では肥料供給は抑えます。しかしこの場合、かん水調整を正確に行いながら窒素濃度を75~100 ppm程度に保たれることをお勧めします。